

ガルモハル

JAPANESE SCHOOL

OF MUMBAI

TEL 022-6694-0630

15 OCT/2024 NO 6

合言葉は、『ムンバイ日本人楽幸！！』

校長 佐藤 義朗

ムンバイ日本人学校は、SDGsを中核とした教育の一環としてキャリア教育で「インドで活躍する日本人」と称し、全校児童生徒と保護者で様々な方からお話をうかがう機会を設けています。また、今年度からスタートした中学部の職場体験では、「ANA（全日空）ムンバイ」様のマナー講習会、「MUF G」様と「くふ楽」様を訪問し、実社会を体験し学び、自分自身の将来と向き合う学習をしています。

マナー講習会では、ANAムンバイ様より3名の講師と支店長をお招きし、サービス（人の役に立つことや物事を提供すること）、ホスピタリティ（深い思いやり、優しさ）についてお話をしていただきました。サービスを提供する相手にそのサービスの価値を感じてもらい、気遣ってもらったという温かい気持ちになっていただく、日本の「おもてなし」に通じることをインドの方から教えてもらったことで、その大切さを改めて実感しました。

講習の中で「言葉は、コミュニケーションの7%にすぎず、声のトーン（スピード、テンポ、大きさ、上げ下げ）が38%、ボディランゲージ（動作、手振り、表情）が55%を占める」というお話がありました。あいさつをするにも、「言葉」をただ発するのではなく、本校のあいさつの目標である「い・め・え・じ」（いつでも、目を見て、笑顔で、自分から）を意識して、「言葉」を上手に生かし、「工夫」し表現することが大切なのです。

今月の18日に行われる学習発表会は、見に来てくださる保護者の方やお客様へ学習の成果を伝えるための大切なコミュニケーションの場であること。自分が発する「言葉」をどのようにしたら、より相手に効果的に伝わるのかをよく考え表現すること。相手に自分の考えや気持ちをしっかり伝えてほしいこと。これらのことを10月の全校朝会で、子どもたちに伝えました。

これから予定されている野外活動、校外学習をはじめ、様々な行事や普段の学校生活においても、子どもたち一人ひとりが、自分自身を上手に表現して自分らしさを発揮して行ってほしいものです。

昨年度から本校では、子どもたちが、学ぶことに喜びや幸せを感じ学ぶことを楽しみながら日々成長していくことを願い、「ムンバイ日本人楽幸」を合言葉に教育課程を編成しています。お蔭様で、皆様のご支援のもと、子どもたちはインドや日本人の様々な職種の方や多くの経験を積んで来られた方から、ここインドでなければ体験できないたくさんの事を学んでいます。これからも「ムンバイ日本人楽幸」の未来ある子どもたちの学びに、ご支援・ご協力の程よろしく願いいたします。



インドで活躍する日本人！講演会



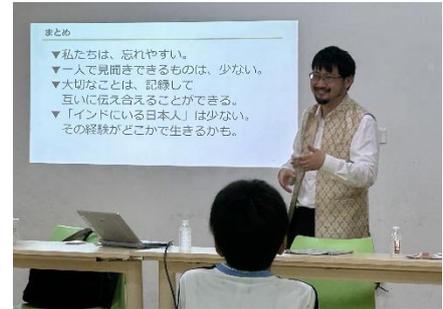
新聞記者ってどんな人？

「インドで活躍する日本人」講演会。今年度第四回目は日本経済新聞社ムンバイ支局長、花田亮輔様をお招きして開催しました。

花田様いわく新聞記者とは「みんなを代表して世の中の出来事を書き残す、言わば日記を書く人」。人は忘れやすいから、そして一人で見られるものは少ないから、新聞記事として各地で起きている出来事を読者に届けているのだそうです。

花田様はインドに関係する記事を日本に届けていらっしゃるようですが、インドは急成長を遂げており、GDPでは来年には日本を追い抜くのではないかという話もしていらっしゃいました。しかし、発展途上の側面もまだまだ残っています。そんな多様な側面を持っているインドと日本企業がどう関わっていくのか、興味深いお話をたくさん伺うことができました。

また、作文は苦手だと感じる小中学生に向けては、「文章には様々なタイプがあり、大切にすべきポイントは違う」という話もしてくださいました。将来仕事をしていくためには、今学校で学んでいることはとても大事だという言葉には重みを感じられ、説得力がありました。花田様の軽やかな語り口で、時間があっという間に感じられる講演会でした。



【児童生徒の感想より一部抜粋】

- ・ぼくも毎日、日記を書いています。確かに昔のことを思い出せる気がします。花田さんの話を聞いて、日記を書くのって大切なんだなと思いました。(小学部2年)
- ・特に印象に残った話は、「大人だったどり着く結論は違う。」です。お互いに持っている考え方を尊重し合っていきたいと思いました。(中学部2年)

職場体験学習を行いました

中学部の生徒たちは9月13日に「MUFG（三菱UFJフィナンシャルグループ）ムンバイ支店」へ、20日にはムンバイの有名和食料理店「くふ楽」へ職場体験学習に行ってきました。MUFGでは銀行の役割や外国為替の仕組みを学んだり、トレーディングルームや金庫の見学をしたりしました。また、名刺をわざわざ作ってもらい、その名刺を使って名刺交換も体験しました。最後には持続可能な社会を作るためのサステナブルファイナンスの話もしていただきました。

くふ楽では、男子は厨房に入ってインド人スタッフから調理の手ほどきを受け、女子は接客を担当しました。最初は包丁の扱いがどこかぎこちなかったり、「いらっしやいませ」の声が出なかったりしましたが、徐々に慣れて、最後にはしっかりと仕事をすることができました。

